

国立国語研究所学術情報リポジトリ

高知県幡多郡大方町方言

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-10-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土居, 重俊 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00003028

方言録音資料シリーズ－8

高知県幡多郡大方町方言

土居重俊編

1 9 6 8

このテキストは、総合研究「地方における話しことば教育法改善のための基礎的研究」（代表者 大石初太郎）の一部として、研究用の資料として作られたものである。

方言の録音方法、方言の表記の方法などのあらましについては、別に作った「方言の録音とテキストの作成について」（国立国語研究所 話しことば研究室編）を参照されたい。

ここに収めた方言の録音とテキストの作成とは、高知大学教授 土居重俊 が担当した。

もくじ

収録地点とその方言について 2

表記について 3

本文

1. 木挽閑談 5

2. 漁師の思い出話 16

注 34

収録地点とその方言について

1. 収録地点名：高知県幡多郡大方町

2. 収録地点の概観

中村市の東方に位置する農村兼漁村。広い海岸線と松林に囲まれた町。藩政時代は幡多郡入野郷と呼ばれた。昭和18年3村が合併して大方町となり、昭和31年に4村合併。米原に尊良親王行在所跡がある。産物として米・麦のほかナロール（芳樟）・葉たばこの生産が盛んである。国道56号線が町を東西に貫通して、近く国鉄中村線が開通する。

3. 収録した方言の特色

四つがなを区別する。連母音が長音化されない（特殊の語い的現象は別）。ガ行ダ行の前の母音が鼻音化する。ソーニカーラン（そうらしい）、ノーガワリー（具合が悪い）などの用法があり、土佐方言的特色をよく備えている。ただしアクセントは乙種である。

4. 地点選定の理由

幡多方言の代表的地点と思われる。

表記について

(指定の字母以外に使用した字母, および使用した補助記号)

特になし

- nasalizationが強く出る場合(たとえば [n iⁿg a t^s u])も, 弱く出る場合も, 一様に $\tilde{\square} \tilde{d}$; $\tilde{\square} \tilde{g}$ のように表記してみた。

1. 木挽閑談

録音日時 1967年9月3日

録音場所 林家(大方町渓川)

話し手

(略号) (氏名) (性別) (生年) (職業) (居住歴)
H 林八十次 男 明治15年生 木挽→農業 高知県幡多郡大方町渓川に永住

解説: 老木挽が木を切る体験談を相当具体的に話している。

H kobiki suru hitowa naine: ima dabano: gakko:-
木挽をする 人は いないね 今 黙場の(地名) 学校
no sorano tju:kitijo ima takakikujone: tju:wa
の 上の 忠吉よ 今 高木の家よね 忠は
naiken doano ieo tateru tokiranine: kuboka-
いなけれど あの 家を たてる ときなどにね 窪川
watjono matubaka: ju: tokoron o okuni oreai
町の 松葉川と いう ところの 奥に オレアイ
(地名)
j u: ka nko: ⁽²⁾ ga aruga unto hutoi jamarasi: ga
という 官公が あるが うんと 大きい 山らしいが
ano ieno ano ieno honbasirawa toga: no toga:-
あの 家の あの 家の 本柱は 桜の 桜
no sorja ri qpana kio sanzjakukakuba: no monoo
の それは りっぱな 木を 三尺角ぐらいの ものを
kasjade: ako ite kio ko:tjoite kasjade zu:-
荷車で あそこへ 行って 木を 買っておいて 荷車で ずー
qto torimahite gakko: no simono mitino hata-
っと 取りよせて 学校の 下の 道の はた
ni: hatakega aqtan arei korobasitjoitene:
に はたけが あったが あれに ころばしておいてね

are madia: ~dojara kojara toqtikitjoru hikit~⁽⁴⁾
あそこまでは どうやら こうやら 取って来ているが 引く人が

nakagtagajo soituo sanzjakugutiba: no monodja-
無かったのよ そいつを 三尺四方ぐらいの ものだ

ken saNZjakuno kakuba: no monoone: kakuni
から 三尺の 角ぐらいの ものをね 四角に

za:qto hatao keduqte sanzjakukakuno monoo
ざっと 側面を けずって 三尺角の ものを

soreo teqtikite hikit~⁽⁵⁾ nakaqt~gajo dareq-
それを 取って 来て 引き手が なかったのよ 誰

tja: hikit~ga soreo hikunja: are ~gajo are
も 引き手が それを ひくには ほら オガよ ほら

ogao aredake emade sasikondati denro ogano
オガを あれだけ 柄まで さしこんでも 出ないだろえ オガの

taketumona: nisjakurokusunba:sika naikeN sonde
長さというものは 二尺六寸ぐらいしか ないから それで

rjohirakara ⁽⁷⁾ soituo zu:qto hikanja ikan gajo
両方から そいつを ずっと ひかなきや いけないの

rjohirakara sono: koqtjai ⁽⁸⁾ ma:ri aqtjai mat:ri
両方から その こっちに まわり あっちに まわり

koqtjai ma:ri zu:qto hit:te ma: hutatuni
こっちに まわり ずっと ひいて まあ 二つに

sitara sorja si joiwa hutatuni sitara kondo
したら それは 容易だ 二つに したら 今度

hiqurikaesitara mo: sjakugosundjakenne: sor~-
ひっくりかえしたら もう 一尺五寸だからね それ

djaqtara daredem hikeru monjo sorja hazime-
だったら 誰でも ひける ものよ それは はじめ

no: sanzjakuno kakuno monoo hutatuni suru
の 三尺の 角の ものを 二つに する

monog~a nakaqtane:
ものが 無かったね。

taite kono: o:sakakara sagamadeno aidano
ほんとに この、 大阪から 佐賀までの 間の
(地名) (地名)

udenno tatu kobikio tju:kitiga ieo hazimenja
腕の たつ 木挽を 忠吉が 家を (つくり)始めねば

ika nmonno hasirawa dekin t umono taite saoide⁽⁹⁾
いけないものの 柱は できないというので、 隨分 さわいで
(のに)

tanmetima: dare q tja. hi:tekurete ga nai ke⁽¹⁰⁾
さがしたが…… 誰一人 引いてくれる人が 無いので

oran nimo sanben kitane sankai kite hidowa
おれにも 三べん 来たね 三回 来て 二度は

kotowa q te ni~dowa jarunimo jaren kotomo na-
ことわって 二度は やれば やれん ことも な

kar o:kendo i ja i ja sonna riqpana sinasio⁽¹¹⁾
かろうけれど いや いや そんな 立派な 製品を

ukeo:te jarisokono: tara ikankeN omo:te sumi
うけあって やりそんじたら いけないからと 思って 墨
(言いさし)

sumidake kuruwasi tara ikankeN ne: sonna mono-⁽¹²⁾
墨だけ はずしたら いけないからね そんな もの

wa ukeawaza q ta tumari sanbeNburi mo: dare mo
は うけあわなかつた 結局 三回目に もう 誰も

taite tanmeti do:sitati hi:tikurete naiga
随分 さがしたが どうしても ひいてくれる人が いないが

tasukeru omo:te jaqt i kuri ju:te sanbeNburi-
助けると 思って やって くれと 言って 三回目

ni kite sorja sore hodo hikitene nai monowa
に 来て、 それは それほど ひきてが ない ものは

ako de kusarasu wakenimo ikumai ken i hiku
あそこで 腐らす わけにも いくまい まあ ひく

kotowa hikanja. ikumai ma: jakutata Njo:ni
ことは ひかなきゃ いくまい まあ 役に立たぬように

surukenjara sirankendo jaqt jaokane. ju:te
するかも 知らないけれど やってやろうかね と言って、
(しれない)

se:kara ora: ma: hi:toi ogao kozjanto nao-
それから おれは まあ 一日 オガを 十分 手入
hitjoite se:kara akoe ite hikijoru tjan to
れしておいて それから あそへ 行って, ひいでいる, ちょうど
do: rono mitid jakenne: ano butikara kono
道路の 道だからね あの 鞭から この
(地名)
kami simosuru hitoraga kikakaqtara na nzo
上へ行き下へくだる 人などが 来かかったら 何かを
mirujo: ni tjan to kuroiba: hiton⁽¹³⁾ takaruba:
見るよう ちゃんと 黒いぐらい 人が たかるぐらい
ora n sigotoo sijoru tokorode ora sotoga
おれの 仕事を している ところで おれは 外が
ijad jaken ukeawazaqtakendo ma: anmari tju: g
いやだから うけあわなかつたけれど まあ あまり 忠が
naiti ma:ruken itjo:kane: ju:te sekara hazi-
泣きついで くるから 行ってみようかね と言って それから 始
mete hon demo: hitotumo heti jaran dukuni
めて それでも すこしも わきへ そらさずに
na ndjaqta kozjanto hiki hi:tene: arewa bu-
あれだって 思う存分 ひき, ひいてね あれは 鞭
(言いさし)
tino taro: gatataeta hi:simo:ta toki taro: g
の 太郎が 建てた ひいてしまった とき 太郎が
daikud jaken daikuwa taro: n jaqta nakanaka
大工だから 大工は 太郎が やった なかなか
korja riqpani dekitano: ju:ba:ni hitotumo
これは 立派に できたね というぐらいに すこしも
hetimo jaran dukunine: kozjanto hi:simo: ta
ひきそんじないでね 思う存分 ひいてしまった
koqta qtaq tani ma: sono zibunja: ne: kobikimo
ことだった まあ その 時分にはね 木挽も
ta it ja hutoikoto aqtakendo sore biku mono
随分 たくさん あったけれど それを ひく ものは

nak aq take Nne: na Nd jat i ~ d ja kobiki si tati
なかったからね なんでもだ 木挽しても

: daikus i tati na Nd jati soreba: na u~ deni narum~
大工をやっても なんでも それくらいの 腕に なるま

~ d ja: eq koro uru sai ko to wa uru sai soreba: none:
では かなり 苦しい ことは 苦しい それくらいのね

u~ deni narum~ de wane: ho nmani: kobiki ~ dja kendo.
腕に なるまではね ほんとに 木挽だけれど

nakuba: na meni san be nba: awan ja: song jan ja
泣くくらいの 目に 三べんぐらい あわなきゃ そんなには

nare n sono zibun ja: sasimono no kon na o: zasi-
なれない。 その 時分には 指物の こんな 大指

(14) mo nno hito tamade zi q tjo: ~ d ja zju: nit jo: ~ d ja
物の 一玉で 十町だと 十二町だと

* ju: waku san zj ak ~ ugut iba: no monowa son na
いう わく 三尺直径くらいの ものは そんな
(このあたりはっきりしない)

ri qpana monoo hiki hiki tewa aq tati ukeawa za-
立派な ものを ひき ひき手は あって うけあわな
(言いさし)

q tane ja son na monowa uru sai son na si ~ gotowa
かったね そんな ものは うるさい そんな 仕事は

ma tuno ma tuno kon na sasimono no huto i mon rawa
松の 松の こんな 指物の 大きい ものなどは

sor ja sjo: sjo heti itati do: sitati ma qto
それは 少々 わきへ それでも どうしたって もっと

si jo ike n do a: ju: monowa ho nmani sumi o ha~ du-
容易だけれども ああいう ものは ほんとに 墨(緋)を はず

hitara ugta sumi o ha~ du hitara ika n to sitaba:-
したら うった 墨を はずしたら 使いものにならぬと したほど

namo Nd Jane: ho Nd emone: ar ja hiki joka q taka
ものだね それでもね あれは ひきよかったのか

kire: ni ko zjan to hi: simo: ta taro: ~ ga a Ng ja
きれいに 思う存分 ひいてしまった 太郎が あのように

ju:taken no: korja nakanaka kozjanto deki-
言ったら なあ これは なかなか たいそう(立派に) でき
tano: ju:te ju:ba:nja oran hi:tane: soreba:-
たなあと 言って 言うくらいには おれが ひいたね それくら
ni narō:ditja kobiki ju:kendo kobikimo
いに なろうと思えば 木挽と いうけれど 木挽も
sijo:i kota konmai mondjajtara kozetuketēdēmo
やりやすい ことは 小さい ものだったら どうでもこうでも
hikukendo nakanaka kokona atarini oran sita-
ひくけれど なかなか こここの あたりに おれの 下
wa dakemaqkō: dījāgā⁽¹⁵⁾ ju: kiwa mo: ikinasini
は 断崖だが (そう)いう 木は もう いきなり
kiqte tukokasujori⁽¹⁶⁾ hokani sijo: naikendo
切って つき落とすより ほかに しようが ないけれど
sonna tokowa mā: meqtani nai mondjaken me-
そんな ところは まあ めったに ない ものだから めっ
q tani nai mondjāgā ko:ju: kīgā taqtjoru
たに ない ものだが こういう 木が 立っている
dono kīdemodjane: ko:ju: kīgā taqtjoru to-
どの 木でもだね こういう 木が 立っている と
koo ko: jokosini kajahite sorekara riñ kake-
ころを こう 横に 倒して それから 台を つくっ⁽¹⁷⁾
te kēdurania ikanro so:ju: kio kirunja:ne:
て 削らねば いけないだろ そういう 木を 切るにはね
kono: taqtjoru kino: taqtjoru kino jamano
この 立っている 木の 立っている 木の 山の
hiraniwa kanarazu kono nēga haqtjoruro
側には からず この 根が 張っているだろ
motoni nēga ko: zu:qto kubaqtjoruro sono
元に 根が こう ずっと 分岐しているだろ その
nenō kubarijo:ni joqtēdījane ano kio akoni
根を 分岐のしかたに よってだね あの 木を あそこに

kajaso: omo:tara jamae zuqto ho:tjoru neno
倒そうと 思ったら 山へ ずっと 這っている 根の

kokoni zu:qto ne~ga to:qtjoruken kono kono
ここに ずっと 根が 通っているから この この

(18) neno kono turui korja totemo tigireru mon-
根の この 根(?)に これは とても ちぎれる もの

dja naiken koitui ukekutio ki qte koiton o
では ないから こいつに 受口を 切って こいつの

sitamade ki qtjoite kondo ogao ko: sasikonde
下まで 切っておいて こんど オガを こう さしこんで

(19) jokobikio kono koreo kiqtara ikaNgajo do si-
ヨコビキを この これを 切ったら いけないのよ どうし

tati sono turuni hikahitjoite koqtjakara
ても その 根(?)に ひかせておいて こちらから

(20) jao uqtara kono ukekutino kirijo:ni joqte
矢を 打ったら この 受口の 切りようによって

hitai jaro:to omoja ukekutio koqtjai ma:hi-
下に やろうと 思えば 受口を こっちに まわし

tjoku uei jaro:to omoja ukekutio koqtjai
ておく 上に やろうと 思えば 受口を こっちに

ma:hitjoite sorekara jao uqte jokobiki~ga
まわしておいて それから 矢を 打って ヨコビキが

zu:qto kakureruba:naqtara jao simetja. iki
ずっと 隠れるぐらいになつたら 矢を 締めては いき

mata hikijoqtja. jao simetja. iki site kono
また ひいていて 矢を 締めては いき して この

turuga mo: josito omou tokini jawa unto ki:-
根(?)が もう よしと 思う ときには 矢は うんと 利い

te iki joqte kiwa ziri ziri ziri: kajaqtii
て いっていて 木は じり じり じりー 倒れて

iki joruken sorede kono turude hikahitara
いってるから それで この 根(?)で ひかしたら

mo: omo u tokoe ika: omo u tokoe boqtiri
 もう 思う ところへ 行くさ 思う ところへ ちょうど
 sor̄ga ma: zit̄djanē: ki: kirunja: horekara
 それが まあ 術だね 木を 切るには それから
 sono: ko: naqtjoru tokorōde unto nāga nāga-
 その こう なっている ところで うんと なが 流
 (言いさし)
 (21) hite kajahite kamawanto ju: jokosini senti
 して 倒して かまわないと いう 横に しなくても
 nāgarete kajaqte kamanto ju: kiwa kono tu-
 流れて 倒れて かまわぬと いう 木は この 根
 rui hikahitjoitara murin ikandukuni ziqtō
 に ひかしておいたら 無理が いかずに じっと
 kajarijōkendone: dō: sitemo kono kiwa joko-
 倒れよいけれどね どうしても この 木は 横
 sini sēnja ikan to omo tara kono nakano tu-
 に しなければ いけないと 思ったら この 中の 根
 rūde hikahite jaruto ju: ma: sor̄ga ma: ki:
 で ひかして やると いう まあ それが まあ 木を
 kiru zituwa sokōdjanē: sor̄djaqtaranē kono
 切る 術は そこだね それだったらね この
 turūno hikijo: ni joqte djo: buna turudjaqtara
 根の ひきょうに よって 丈夫な 根だったら
 sorja omo u tokoi kajaru mo: giqtiri
 それは 思う ところに 倒れる もう びったり
 so: site sono kinone. kīga kajaqte jokosini
 そして その 木のね 木が 倒れて 横に
 kīga kajaqte kokoni kono asāgīga taqtjorūgā-
 木が 倒れて ここに この 雜木が 立っているの
 djanē: asāgīga taqtjoru soituno utihirai
 だね 雜木が 立っている そいつの 内側に
 (22) kajaqtato sotohirai kajaqtato sorja hutoi
 倒れたのと 外側に 倒れたのと それは 大きい

niniNjakumo t̄igauba: sono riN kakeruni ja-
二人役も 違うぐらい その 台を つくるのに 手

k̄uga kakara: sono ki: sono kio aiteni hite
間がかかるさ その木 その木を 相手に して

sono taqtjorū kio aiteni site riNo sasite
その立っている 木を 相手に して 台を つくって

mata tuitara dikini dekiru monōga kono ta-
また 枝を落としたら すぐに できる ものが この 立 ***

qtjorū kijorika sotohirai kajaqtara naqtja:
っている 木より 外側に 倒れたら 何も

nai tokorōdjaqtara riNo kunde tja:Nto jaq-
無い ところだったら 台を 組んで きちんと やつ

tjokana ikanro sono omowakumo unto aru mon-
ておかなれば いけないだろう その 思案も うんと 有る もん

jo sorja kino kajari jo:wa hutoi kidjaqtara
よ それは 木の 倒れようは 大きい 木だったら

kine kajari jo:ni joqtja mo: niniNjakumo
木の 倒れ工合に よっては もう 二人役も

t̄igauba: sono jak̄uga kakarukeNne: mo: ki:
ちがうくらい その 手間がかかるからね もう 木を

kiruwa sorēga zitujō
切るは それが 術よ。

orara:Nne taisjo:sonni oqte taisjo:sonno
わしらがね 大正村に 居て 大正村の
(地名)

tanonōga tju:sinde tanonono tamura ju. tokō-
田野々が 中心で 田野々の 田村と いう とこ
(地名)

g a jadodjaqta sokokara zu:qto kajo: te tuno-
ろが 宿だった そこから ずっと 通って 津野
(地名)

jamae iku tunojamae ikunja: tanonokara kami:
山へ 行く 津野山へ 行くには 田野々から 上へ

ite o:naro ju: toqkara zu:qto sakao agarihā-
行って 大奈路と いう ところから ずっと 坂を あがりは
(地名)

zimete ssorekara to:madé ~agatara matubara
じめて それから 峠まで あがったら 松原
(地名)

tunojamano matubara ju: tokoi no zaissjo i
津野山の 松原と いう ところに、 の 在所に
(言いまちかい)

oriru jatare ju: nandjane arja jataresanrino
おりる 矢立と いう なんだね あれは 矢立三里の

sakadja sanrino sakao nifriba: no aida da-
坂だ 三里の 坂を 二里くらいの 間は だ

rari darari darari darari sorekara to:madé
らり だらり だらり だらり それから 峠まで

~agatara gaqkuri orira: waera: mukasino
あがったら がっくり おりるさ。 お前たちは 昔の

jatare jataretu: monoo sirumai jataretumono-
矢立 矢立という ものを 知るまい 矢立というもの

wane konmai kono kono konmai kohude fireru-
はね 小さい この この 小さい 小筆を 入れる

ba: no taqpodjane:
くらいの 筒だね。

kaneno sorekara soitoi: hudeo sasikonde
金の それから そいつへ 筆を さしこんで

sorekara sokoni tubon arugadja sono jata
それから そこに 壺が あるのだ その やた
(矢立と言うつ

sono koitono sakini kono mariba: no sumio
その こいつの 先に この まわりくらいの 墨を
もりであろう

i qta tuboga aru soitoi buta soitoi butao
入れた 壺が ある そいつに 蓋 そいつに 蓋を
(このあたり話に亂れがある)

tjoito butao aketara butao tjoito site hi-
ちょいと 蓋を 明けたら 蓋を ちょいと して し

tara kono kokoi sahitjaru hudem den sono
たら この ここに さしてある 筆も 出ない その

(24) omoimo konmai kono mariba: none: soituo ma:
オモイも 小さい この 周りくらいのね そいつを まあ

tjoi tjo i ko ko ko: ja māde tjo tjo: qto ma:-
ちょい ちょい こ こ こう ひもで ちょ ちょーと まわ
(言いよどみ) (言いさし)

hitjoite sorede kosi: sasitara mo: sorega
しておいて それで 腰に さしたら もう それが

jata te soito ju: ta mondjane. sono eo zu:qto
矢立 そいつを 言った もんだね その 柄を ずーっと

noboqte ite gakuri muko:e oritjoru soreo
登って 行って がくりと 向うへ 降りている それを

jata te jata san rino saka imara areo to:ri-
矢立 矢立三里の 坂 今は あれを 通ってい

joran tukendone: imara: sono: jusuwarakara
ないといふけれどね 今は その 橋原から
(地名)

deta simantokai detjoru ka: no hutio do:ro
出た 四万十川に 出ている 川の ふちを 道路が
(地名)

nukete areo basun ima kajoutukenne: ano
抜けて あれを バスが 今 通うということだからね あの

jata teno to:rawa ima hitowa to:ru mon nai-
矢立の 峠は 今 人は 通る ものは いない

zone: mukasiwa so:ju:jona tokowa itonne:
よね 昔は そういうような ところは 行ったものだがね。

sonna ziq timo orara hundjorukendo sonna
そんな 実地も おれらは ふんでいるけれど そんな

hanasio ima hiteno kotomo naiwa
話を 今 しての ことも ないさ。

2. 漁師の思い出話

録音日時 1967年7月8日
録音場所 山本家(大方町田の浦)

話し手

(略号)	(氏名)	(性別)	(生年)	(職業)	(居住歴)
H	浜田数義	男	明治43年生	教員	幡多郡大方町田の浦→高知市1年7か月 →佐川町3年→窪川町3年以後田の浦
Y	山本万助	男	23年生	漁業	大方町田の浦→大月町5年→善通寺3年 以後田の浦

解説：方言研究家が親しい漁師に大しけ、地震、出買船、「しき」の休日などについて回憶的に語らせている。

H s o r e ~ d e k o : t o : s u n d e k a r a d o k o i d o : s i t a ~ g a d j a q -
それで 高等(科)が すんでから どこに どうしたんだっ
t a z e k o : t o : d j a n a i z i n z j o : s u n d e k a r a
たの 高等じゃ ない 尋常(科) すんでから
Y z i n z j o : s u n d e k a r a o n d a : o n r a : n a n i j o j o d i k i -
尋常 すんでから おれは おれは あれば すぐ
n i : a n o : u t i ~ d e i t i n e n k a n i n e n k a u t i n o r j o : -
に あの うちで 一年か 二年か うちの 漁
s i s i j o q t e n e j a (H ū:) s o r e k a r a s o n o z i b u n -
師を していてな それから その 時分
n j a m i n a j o m a : o n r a : ~ d a t e k a r a ⁽¹⁾ u e n o m o n o w a
には 皆よ まあ おれぐらいの年格好から 上の 者は
m i n a t o j u : b a : ~ d j a q t a n e : u t i ~ d j a : z e n i n t o r e n -
皆と いうぐらいだったね うちでは ぜにが 取れない
k e N n e j a p o n t o ⁽²⁾ h a n a m a i ⁽³⁾ (H ū:) a n o . k a t u o b u n e -
からだな 全部 鼻前に あのう かつお舟
n o ~ i d e t o r i i k u m o n a ~ i d e t o r i i k u s e k a r a s a n g o -
の えさ取りに 行くものは えさ取りに 行く それから 珊瑚

zjumo ikumona sangozjuni iku katon i ikumona
 珠も (取りに) 行く者は 琥珀珠(取りに) 行く 鰻(漁)に 行く者は
 katon i ikune ja (H ū:) taite: iita warēguno
 鰻(漁)に 行くさ たいてい 行った お前のうちの
 ai joran komai tokiwane ja
 兄らが 小さい ときはさ
 H sangozjuni ni:tajo:nano sono zibun sangozju
 琥珀珠に 似たようなう その 時分 琥珀珠は
 ūnto toretakae
 うんと 取れたかい
 Y toreta toreta toretake endone ja dō:de hunea:
 取れた 取れた 取れたけれどだなあ どうせ 舟は
 koza itunōdēmo hija qpa⁽⁴⁾ aq take nne ja
 小才角でも 百艘 あったからなあ
 (地名)
 H sangozjubunēgaja (Y ū:) koza itunōdakēdē
 琥珀珠舟がね 小才角だけでも
 Y hunea: (H ū:) sangozjuni juku hunemo aru
 舟は 琥珀珠(取り)に 行く 舟も ある
 komai hunemo aqta hija qpa⁽⁴⁾ aq tane ja (H ū:)
 小さい 舟も あった 百艘 あったなあ
 sorēgā: nandja qta zo itine nne ja ionzju⁽⁵⁾ na nne-
 それが あれだったよ 一年だな 四十 何年
 ndja qta kane ja ano o:siken o ninjane ja (H ū:)
 だったかなあ あのう 大しけの 日にはなあ
 sono hunea o:kata ne ja tukau eru hunea iqpa⁽⁶⁾ mo
 その 舟は 大方 使う える 舟は 一般も
 nai ju: ba: itamu ito: dōjo (H nande ja sike-
 無いと いうぐらい いたむ いたんだよ なぜだね しけ
 (意味つづく。言いなおし)
 nine ja (H ū:) utira: no hitora: gā mo: ūnto
 のためさ うちなんかの 人たちが もう うんと
 sinda.(d)jako⁽⁶⁾ kameta odi: ne ja imano jatāguno
 死んだじゃないか 亀太おじだな 今の 弥太のうちの

o j ~ ad i ~ d j a j u : t e n e j a
おやじだと 言ってだな

H j o n i N s i n d a j u : t e j u : t a n o w a s o n o t o k i k a e
四人 死んだと 言って 言ったのは その 時かえ

Y u : s o n o t o k i ~ d j a
んー その 時だ

H u t i r a ~ d a k e ~ d e n o :
うちらだけでなあ

Y s o r e k a r a n e j a k a i n o k a : n o s e i n e n r a : n e j a (H u :)
それからだな 貝の川の 青年らがだな
(地名)

n a n d j a : q t o j o s o n o s a n g o z j u t o r i w a k a i s j u ~ g a
あれだったな その 瑞珊瑚珠取り(に) 若い衆が

t o r i ~ a g e n i i t e n e j a (H u :) m i n a t o e h a m a q t j o q -
取りあげに 行ってだな 港に はいっていて

t e n e j a (H u :) a n o : n a m i ~ g a h u t o : n a q t e h u n e -
だな あのう 波が 大きく なって 舟

g a u t i : h i k e n k e n i t i : r o j u : m i n a t o e n e j a (H
が 中に ひけないから 千尋と いう 港へだな
(地名)

u :) m a : s i j o q t e s o n o h u n e o k o z a i t u n o ~ d e a n o :
廻していて その 舟を 小才角で あのう

H k a i n o k a : n o h u n e
貝の川の 舟

Y k a i n o k a : n o h u n e s a n n i n n o r i ~ g a o k i m u i t e n a ~ g a -
貝の川の 舟(で) 三人乗りが 沖に 向いて 流れ

r e j o q t a ~ g a j o h o r j a m o ~ d o r a n d u k u j o j o (H u :)
れていたのよ ほら もどらずじまいよ

m i n a t o e h a m a q t j o q t e n e j a
港へ はいっていてだな

H h a m a q t j o q t e k a r a
はいっていてから

Y u t i : h u n e ~ g a i k e n k e n i t i h i r o j u : t o k o n o m i n a -
内部へ 舟が 行けないから 千尋と いう ところの 港

tōgā e: minatōdene ja kokokara honno mietjo-
が よい 港でだな ここから ほんの 見えてい

ru tokorōdjakēnne ja (H ū:) sju: qto itara
る ところだからなあ さっと 行ったら

e: tokoroo⁽⁷⁾ hoko i iko: omo: te ita sokoe jo:
よい ところを そこに 行こうと 思って 行った (が)そこへ 行かれ

ikan jamāgita ju: are jamakara ko: hukidāsu
ない 山北と いう あれ 山がら こう 吹きだす

kazeni oki muite nāgasare simo: ta⁽⁸⁾
風に 沖 向いて 流されて しまった

H ū: mōdoran duku
んー もどらないで

Y mōdoran duku
もどらないで

H seineN saNNiN
青年 三人

Y rokuniN
六人

H rokuniNgae
六人がね

Y nihaidjajakenne ja
二艘だったからなあ

H ū: saNNiNdutūde nihaftomo nāgarete simo: ta
んー 三人ずつで 二艘とも 流れて しまった

Y nāgarete simo: ta
流れて しまった

H atono disiNjono: oki: oqta ano tokini
後の 地震よねえ 沖に 居たの あの ときに

Y ano tokini. sono: tateisino oki: orimasitani-
あの ときに そのう 立石の 沖に 居りましたに
(地名)
no: .hunei nejoqtaga soremo.
ね 舟に 寢ていたが それも

H hune~de nejoqta ~u:
舟で 寢ていた んー

Y sorema~de koamitate horja amitateni itjoqte
それまで 小網立て ほら 網たてに 行っていて

(H ~u:) ame~ga boroboro siteno (H ~u:) ~agero:
雨が ぼろぼろ して あげようと

omo:te mōdoro: omo:te ame~ga boroboro sita
思って もどうと 思って 雨が ぼろぼろ した

a: mo: hitokuti nejo ju:te neta tokoroga
ああ もう ちょっと 寢ようと 言って 寝た ところが

(H ~u:) sorekara sono tokini toqtara ondara
それから その ときに 取ったら おれたち

do:jara wakarangadjaqtaneja (H ~u:) sorekara
どうやら わからんのだったなあ それから

toqtene: ano: nejoqte hitokuti okite toqtā-
取ってねえ あのう 寝ていて ちょっと 起きて 取った

gadja: (H ~u:) disinwa djaqtamono hokano
のだ 地震は だったもんよ ほかの
(発音はっきりしない) (意味づく)

jama: guza~guza guza~guza kueru ano: umiwa
山は ぐざぐざ ぐざぐざ くずれる あのう 海は

ko: ue sita ue sitaneja hune~ganeja honmani
こう 上 下 上 下 舟がだな ほんとに

i q sjakuba: moti ~agaqtari oritari sitaneja
一尺ぐらい もちあがったり おりたり したなあ

(H ~u:) sore~ga ano: sono tokino tunamino
それが あのう その ときの 津波の

omodja sorekara susakino okiga pa:pato ni-
中心だ それから 須崎の 沖が パーパーと 二

s a N b e N akaqtaneja
三べん 明るくなつたなあ

H ~u: susakino okiga ja
んー 須崎の 沖がな

Y ū: (H ū:) ano nādani orunine ja ara susaki
んー あの 滩に 居るのにだな あれ 須崎に
o: kena gunka naga kitjorune ja i: joqtaga sore-
大きな 軍艦が 来ているなあと 言っていたが それ
ga omōdja qta sore- ga hazime dja qta (H ū:)
が 中心だった それが 始めだった
itibān sono nisiwakinone ja
一番 その 西脇の(山)のだな

H disi nwa sira ndukujono:
地震は 知らないでいたのだね

Y sorekara nandja: q tazo ~ agete montajo monta
それから あれだったよ (網をひき)あげて もどったよ もどった
tokoro: ~ ga sorekara jōga aketenō: okakarano
ところが それから 夜が 明けてなあ 陸上からの
hitora: ~ ga kowai zo kowai zo kowai zo ju: te
人たちが こわいぞ こわいぞ こわいぞと 言って
sjakerijoru
叫んでいる

H kowai zo ju: te
こわいぞと 言って

Y kowai zo ju: te
こわいぞと 言って

H nādano hitora: ~ gano
滩の 人たちがね

Y ū: nādano kowai zo ju: te sjakerijoruke nne:
んー 滩の(人が) こわいぞと 言って 叫んでいるからね
o: orite mōdori joqta tokoro: ~ ga siomin o sio-
お おりて もどっていた ところが 潮干の 潮
(言いさし) (このあたりすこしつじつまが
no tataegani anō: haino ai da hune to: ru
の 満ちたときに あのう 岩礁の 間(に) 舟の 通る
合わぬ)
to: ru tokoro: ~ ga arugane ja sokō ~ ga ka: rani
通る ところが あるのだが そこが 川原に

nagtjorutu: koto[~]dene ja ori jo kor ja do:[~]ju: ⁽⁹⁾
なっているといふ ことでだな あれ これは どういう

koto[~]djarone ja on da: sore m[~]de so nna kota
ことだらうなあ おれは それまで そんな ことは

sirazaqtaNne: (H u:) do:[~]ju: koqtjarone ja
知らなかつたねえ どういう ことだらうなあ

kor ja war ja to:re nro: ka sore kara oki· ma:q te
これは わしは 通れないだらうか それから 沖を 回って

mo nte simo[~]dano oki itara hon no⁽¹⁰⁾ simo[~]dani so-
もどつて 下田の 沖(に) 行つたら ほんに 下田に そ
(地名) (地名)

no hamaru midu gane ja (H u:) a nna toko unto
の はいる 水がだな あんな ところは うんと

hamarukeNne ja go:go: i:joru o:rjo* kor ja ko-
はいるからだな ゴーゴーと 音をたてているあれ これは こ

waizo kowaizo ju:te (H u:) oki: ma:q te mo n-
わいぞ こわいぞと いって 沖に 回って もどつ

te se:kara i jano oki· mo n tara joga aketa
て それから 伊屋の 沖に もどつたら 夜が 明けた
(地名)

(H u:) tokoro:ga p o n t o s o n o n a n i j o k i r i b o s i
ところが 全部 その あれだ 切干の

ki q tja: r[~]gao tu n d a n a r i[~]dene ja (H u:) oki e
切つてあるのを 積んだままでだな 沖へ

n[~]garejoru ju:tuwa na nbo[~]guramo⁽¹¹⁾ sore kara
流れていると いうことだ 何くらも それから
(発音不明瞭)

utino oki: mo nta tokoro:ga sono n a n i d j a : t o
うちの 沖に もどつた ところが その あれだった

si ot orino mo n gane ja h[~]giri ijara⁽¹²⁾ na nikaja ta-
潮取りの 者がだな はぎりやら なにかや た

n s u d j a : n a n d j a : t a n su wa kokono
んすだの 何だの たんすは ここ

H ja m a s a N n o⁽¹³⁾
やまさんの

Y jamasan no ⁽¹⁴⁾ ḡad jaqtā mondja (H ū:) h̄girijara
やさんの のだった もんだ はぎりやら

nani ja honno tukani naqte n̄garejorukeNne ja
なにやが ほんとに 塚に なって 流れているからだな

(H ū:) sorekara onda: h̄girio nandja:qto: e:
それから おれは はぎりを あれだった よい

h̄girio mi qtu hiro:te kite toqte n̄getja·qta
はぎりを 三つ 挑って 来て 取って あげてあった(が)

sore dokono ḡad jaqtaka torareta sorekara ko-
それは どこの のだったか 取られた それから こ

kōdja nai imano to jōdino josimakuno maeni-
こで ない 今の 豊おじの(息子の) 労馬のうちの 前に

ne ja (H ū:) koami orositaNne ja (H ū:) na N-
だな 小網を おろしたんだな あれ

dja:qto jo kono ondaga monta hunja: ponto
だったよ この おれが もどった 舟は 全部

n̄gare simo:te oki: orankeN (H ū:) okae
流れて しまって 沖に いないか 陸へ

jorū ga: jorune ja (H ū:) ondara: monta hune-
寄港するのは 寄港するなあ おれたちが もどった 舟

wa ami orositjoite sono hune mina hirai
は 網を おろしておいて その 舟を みな 拾いに

ito jo
行ったよ

H a: okini n̄gare t̄gao (笑声) so: kae so: hoita-
あー 沖に 流れたのを そうかえ そう そした

ra kosaNra: ⁽¹⁵⁾ hune iqpa i djaqtā mo: tanourāde
ら あなたたちの 舟は 一艘だった? もう 田の浦で

Y ni hāid jaqtajo sono koamīgabunēgane ja ni hāid ja-
二艘だったよ その 小網舟がだな 二艘だ

qta jo
ったよ

H kosan huneto dare
あんたの 舟と 誰

Y ano: oraN aijora.tone ja onda:rato nihaidjaqta
あのう おれの 兄貴たちとだな おれたちと 二艘だった

H u: ju:t⁽¹⁶⁾ jonetjankano (Y u:) mo: tanoura~de
んー まあ 来ちゃんかね もう 田の浦で

nagarete simo:te sono nihaisika
流れて しまって その 二艘しか

Y ponto nagare simo:tjoqta (H u:) joruga:
みんな 流れて しまっていた 寄港するのは

jorune ja (H u:)
寄港するなあ

H sorede zenbu hiro:te kuru kota hiro:te ki-
それで 全部 捨って 来る ことは 捨って 来

takae
たかね

Y hiro:temo kurune ja (H u:) hokano hunja. ku-
捨っても 来るさ ほかの 舟は く

daketa hunemo aqtakendone ja
だけた 舟も あったけれどな

H hune: sono tokini: sono o:namiga kite utira:
舟 その ときに その 大波が 米て うちなど

jamasanno iega nagareta tokijono: (Y u:) sore-
やさんの 家が 流れた ときよねえ それ

kara kokono maeni ano: zjakogojaga aqtaga nakama-
から ここ 前に あのう じゃこ小屋が あったが 仲間

no arera:mo zenbu nagarete simo:ta tokijono:
の あれなども 全部 流れて しまった ときよねえ

Y nagareta
流れた

H sono tokini hitowa itamja seraqtakano:
その ときに 人は 損害は なかったかねえ

Y u: hitowa jamasanno ba~ga sindab~djan e ja
んー 人は やさんの 婆が 死んだくらいだな

- H ja masan no oba: saNwa arja siNDjoqte jotōgi sijoqte
やさんの お婆さんは あれは 死んでいて お通夜をしていて
- nāgaretagādja nakaqtakae arede sindakae (騒音)
流れたのじゃ なかったかね あれで 死んだかね
- Y jotōgisijoqtejdja nakaqturo arja: daitaiwa jo: i-
お通夜をしていてでは なっただろう あれは 大体は 動け
- gōkanjo:ni naqte warikaqtāgādjaqtakenno: jo: igo-
なく なって 悪かったのだからねえ 動け
- kanjo:ni naqte nāgarete sindāgādjanō
なく なって 流れて 死んだのだ
- H a so: kae
あ そうかい
- Y utiāgetjoqtāgādjanō
うち上げていたのだ
- H ū: so: kae ū: dēgaiwa omoni donna: koto sitaze
ん そうかい ん 出買は おもに どんな ことを したの
- Y dēgaiwaneja (騒音) kokowa hitotumo nai tokitādjaqtā-
出買はだな ここは 少しも 無い ときだった
- gā hamādjaqtakenneja (H ē:) zu:qto koqkaraneja
が 浜だったからなあ ずっと ここからだな
- (H ē:) nandja:qto dēgaiwa ima iwasio kūgatukara-
あれだった 出買は 今 いわしを 九月から
- neja (H ū:) seqkiiippaiwa taite iwas i kaini ita
だな 大晦日いっぱいは たいてい いわしを 買いに 行った
- urumeoneja
うるめをだな
- H dokoe
どこへ
- Y iijokaraneja (H ū:) hijū:ganeja (H ū:) omo i jo hijū:-
伊予からだな 日向を おもに 伊予 日向
- gādjaqtaneja (H ū:) onda: naninimo itajo genkaini-
だな おれは 玄海にも 行ったよ 玄海に
- moneja (H e:) genkainādanimo ito:jo
もだな 玄海灘にも 行ったよ
- H iwasi kainija (Y ū:) ū: genkaināda hukuokano
いわしを 買いにか ん 玄海灘(と言えば) 福岡の

atarikano

あたりかな

Y o: hukuokano tjoqto temaeno iwaja ju: tokō-
おう 福岡の ちょっと 手前の 岩屋と いう とこ
gā omōdjaqtaneja
ろが おもだつたな

H ū: hoitara tusima atarimo itakano aqtawa
んー そしたら 対馬 あたりも 行ったかね あっちは

Y aqtawa ikan
あっちは 行かない

H ū: hoitara juwajāga ma:
んー そしたら 岩屋が まあ

Y juwajamādēdjaqta juwaja ju: tokōdjaqtaneja
岩屋までだった 岩屋と いう ところだったな

(H ū:) akowa sono tokinjā kisjāga kijogtana-
あそこは その ときには 汽車が 来ていた

neja (H ū:) ano itibawaneja (H ū:) ninaīga
なあ あの 一番はだな 担いの漁商人が

ko:teneja (H ū:) nibawwa kisjāga ko:te (H
買ってだな 二番は 汽車(で運ぶ商人)が 買って

ū:) sanbaNwa sono daitāiga sono itibaN han-
三番は その 大体が その 一番 半

neba:ni naru tokidjaqtaneja (H ū:) minnano
値ぐらいに なる ときだったな みんなの

tuboe nanisitara o:kena homairae tundarineja
壺へ あれしたら 大きな 帆前船へ 積んだりだな

(H ū:) ondarā tumu hunewa ma: niseNganba:
おれたちの 積む 舟は まあ 二千貫くらい

tumu hunēdjaqtaneja
積む 船だったなあ

H degaigaja (Y ū:) niseNgan tumetaka are so-
出買舟がな 二千貫 積めたか あれ そ

re: namaō kaugajono:
れ 生(の魚)を 買うのよなあ

Y namao ko:te
生を 買って

H ko:te sorekara do:
買って それから どう

Y sio hiteneja
塩 してだな

H ~u: taru moqti ite
んー 檜 持って 行って

Y tarudja: ikanken inagara kankoe sio irete
檜では いけないから そのまま (漁船の)生簀へ 塩を 入れて

toqte monte
取って もどって

H ho: kankoe sonomamano (Y ~u:) utimade toqte
ほう 生簀へ そのままの うちまで 取って

montakae
もどったかい

Y ~u: uti: toqte monte sono tokinineja (H ~u:)
んー うちに 取って もどって その ときにだな

i qpaide nanbu mo: ketato iu: tara sanninde
一艘で いくら 儲けたかと 言ったら 三人で

noqte ite joq tariwakedjaqtakenneja gozju:en
乗って 行って 四人分けだったからだな 五十円

aqtakenneja hitoko:kainineja
あったから 一航海にだな

H soitara nihjakuen mo: ketajaika
そしたら 二百円 儲けたじゃないか

Y u: nihjakuen
んー 二百円

H hune wa (hoitara) hitoribunni naru ~u:
舟は (そしたら) 一人分に なる んー

Y sono tokini no: gozju:en ju:taraneja rokuen-
その ときの 五十円と 言ったらだな 六円

d ja q t a k e N n e j a h i g a o n d a r a : g a h i j o : n i k a k a r u
だったからな 日が おれたちが 日傭に かかる

t o k i n j a : n e j a
ときにはだな

H h i g a t u k i d j a r o g a e
日が? 月だろうな

Y t u k i g a t u k i g a r o k u e N j o n i z i q s e N d j a q t a k e N
月が 月が 六円よ 二十銭だったから

H h i g a
日が

Y h i g a (H u:)
日が

H t u k i n o h i j o : g a r o k u e N d e u : h o n n a r a a : j a t u -
月の 日傭が 六円で んー そしたら あー 八

k i b u n j o n o : h i t o k o : k a i d e h i t o k o : k a i n a n n i t i -
月分よなあ 一航海で 一航海 何日く

b a : k a k a q t a z e
らい かかったの

Y a n o : s i o : g a t u n o : z j u : h a t i n i t i s u n d e i t e n e j a
あのう 正月の 十八日 すんで 行ってだな

(H u:) n i g a t u n o s o k o i t a t o k i n j a n i g a t u n o
二月の そこへ 行った ときには 二月の

n a k a g o r o n i m o n t a n e j a
中頃に もどったさ

H u : j u w a j a e i t a t o k i n j a
んー 岩屋へ 行った ときには

Y h i t o t u k i b a : k a k a q t e n o :
一月くらい かかってなあ

H h i t o t u k i b a : k a k a q t e n o :
一月くらい かかってなあ

Y s o N g j a n i m o : k e r u t o k i m o a r u k e n d o n e j a (H u:)
そのように 儲ける ときも あるけれどだな

ano: hijū: gano simanoura ju: tokode tunda
あのう 日向の 島の浦と いう ところで 積んだ
(地名)

tokinja: neja (H ū:) kūgatuno maturidjajta
ときにはだな 九月の 祭りだった

kūgatuno zjū: gonitimaedjajtaga ko:tja: sjanto
九月の 十五日前だったが 高知は 残念にも

jasu:N naqteno: (H ū:) ko:ti tunde kurūga
安く なってなあ 高知へ 積んで 来るのを

sonō ga ho hosi: jaqta (H ū:) mo: ikankeN
その ものを ほ 乾しに やった もう いけないから
(このあたり発音不明瞭)(言いさし)

korja hiroshimae iko: zeja jute hiroshimae
これは 広島へ 行こうよと 言って 広島へ

itāga hirosimadja: naNDja: qtzaje hjakueNba:
行ったが 広島では あれだったよ 百円くらい

sōnga ita kotomo arukeNneja (H ū:) sorekara
損を した ことも あるからなあ それから

mata modorisinani uti modorandukuni zu: to
また もどる途中で うちに もどらずに ずっと

i jōde ko:te kondō sono gā ko:ti mōteita
伊予で 買って 今度 その ものを 高知へ 持っていった

sorede sono sōntoqte (H ū:) torikaesita
それで その 損を 取りかえして 取りかえした

kotomo aru sōndjaken sjō: baiwa ju:tati ika-
ことも ある それだから 商売は 言っても 駄

na:ja (H ū:) sōnno iku tokimo arukeNneja
目だよ 五十円 儲けても 損をする あるからなあ

H sō:djanō: gozju:en mo: ketemo sōnsuru kotomo
そうだなあ 五十円 儲けても 損をする ときも

aru sono totjū:de sikeni o:tari suru koto
ある その 途中で しけに あったり する ことは

nakaqtakae dēgai bunemo sono: kikai bunedja
無かったかね 出買船も そのう 機械船では

naike: uNto kikeNna meni o:turogae
ないから うんと 危険な 目に あっただろう

Y ū: taīgaineja hijori miteneja ano: e: mina-
んー 大概だな 日和を 見てだなあのう よい 港

toe hamerukeneja (H ū:) nanijojo hijoriga
へ 入れるからな あれだ 日和が

suwaranja: dete ikankenno: a sono zibunja-
固まらなければ 出て 行かないからなあ あ その 時分には

ne: (H ū:) sondjaken heqsan i kakaqtāgadjaken
ねえ それだから 久しく かかったのだから

wari: hijorinja:……
悪い 日和には

H a: kju:sju:māde ikuni hitotuki kakaru jū:ga
ああ 九州まで 行くのに 一月 かかると いうが

sonna koto aruke: maqsug u iketara sonnani
そんな ことが あるかい まっすぐ 行けたら そんなに

hitotukimo……
一月も

Y kowai omo:tarano: hajo: minato torukeno:
こわいと 思つたらなあ 早く 港へ 入るからなあ

doko dokoi itara e: minato arutu: kotōga
どこ どこに 行ったら よい 港が あるという ことが

wakaqtjorukeno: (H ū:) sorekara kono sore-
わかっているからなあ それから この それ

de atira ju:tarano: tjo:do kono ijo e hamaq-
で あちらと 言つたらなあ ちょうど この 伊予へ 入っ

tara nanidjano: tosawa sonna koto naikendo
たら あれだな 土佐は そんな ことは ないけれど

ijo e hamaqtara sono kaīganwano: kaīganno
伊予へ はいったら その 海岸はなあ 海岸の

siōga nanijono: si kono o:kena kano se:gurai
潮が あれだね この 大きな 川の 潮ぐらい

ikukenno: si sono miteino siōgano: si (H ū:) ⁽¹⁶⁾
流れるからねえ その 満干の 潮がねえ

sonde sioni hikasukeno taigai sono siōdja-
それで 潮に ひかすからなあ たいがい その 潮だ

qtara dokozoni ikuto ju: kotōga kazega sjō:-
ったら どこかに 行くと いう ことが 風が 少

sjō: wari: temone.⁽¹⁷⁾ (H ū:) jarukeNne ja (H ū:) ⁽¹⁸⁾
々 悪くてもねえ 舟を出すからなあ

sio kuqte sondja: ken i siono wari: tokinja:
潮を 計算して それだから 潮の 悪い ときには

nanijo kazēga jo:nakerjanja kazēga wari:
あれだ 風が よくなれば 風が 悪いと

ju:tara nanijo sio kuqte jarukeN sono zika-
言ったら あれだ 潮を 計算して 出すから その 時間

ndene ja imakara kono siōdja q tara kondono
でだな 今から この 潮だったら 今度の

siowa dokemāde ikerukendo sjō: sjō: wa ano
潮は どこまで 行けるけれど 少々は あの

kazēga wari: temo jarerukeN jaro:kanejatujo:-
風が 悪くとも 出せるから 出そうかなあというよう

ni jaqpari sio kuqte jaqtakenne ja
に やっぱり 潮を 計算して やったからなあ

H sonnani sio hikijorukajo akowa ⁽¹⁸⁾
そんなに 潮が ひいているかね あそこは

Y hikijoru (H e:) kowai zo go:go: go:go:
ひいてる こわいぞ ゴーゴー ゴーゴー

H sonnara sono siōga gjakuno tokinja: nakanaka
そんなら その 潮が 逆の ときには なかなか

hunja ikana:nō:
舟は 進まないなあ

Y ika NkeNne ja
進まないからなあ

H ū: hōndara sion i norujo: ni iki si mōdori
 んー そしたら 潮に 乗るよう 行き帰りを

kangaete zikan kangaete jarūgajono: < Y-a: so: >
 考えて 時間を 考えて やるのよねえ ああ そう

ū: kizitujono: (19) mukasiwa asakara jasumi djaq-
 んー 式日よなあ 昔は 朝から 休みだっ

turoe たろう

Y mukasja jasundane ja ano: mukasikara ima
 昔は 休んだなあ あのう 昔から 今は

joke jasumankendone ja (H ē:) mukasin ja ro-
 あまり 休まないけれどだなあ 昔は 六

kugatuh i:toi to
 月一日と

H rōkugatuh i:toi wa do: ju:te jasundaze
 六月一日は どう いって 休んだぜ

Y seqkudja ju:te jasundane ja korja ano rōku-
 節句だと 言って 休んだなあ これは あの 六

gatuwā 月は

H nanno seqku ju:te
 何の 節句と 言って

Y seqku ju:te ju:kendo orara: koziwa wakaran-
 節句と 言って 言うけれど おれたちは 故事は わからない

kendo nandjane ja jaqqari rōkugatuni naqtara
 けれど あれだな やっぱり 六月に なつたら

[jasumitaiken jasundaro:] mo: (笑声) [sjo:ga-
 (休みたいから 休んだろう) もう (正月
 (女の声遠くから)

tuga sorekoso iqsju:kanba: mukasi aqtatudja-
 が それこそ 一週間くらい 昔 あったというじゃ

i ka) rokugatu rokugatuno tukinja miqaba:
ないか) 六月 六月の 月には 三日くらい

jasumi~ga aq takeNno zju:hatiniti zju:~gonitiwa
休みが あつたからね 十八日 十五日は

H zju:hatinititone: ~
十八日とねえ んー

Y sit~gatuni naqtara nidoNe ja tanabatasanto
七月に なつたら 二度だな 七夕さんと

bontode bonwa miqka jasunde (H ~u.) onda: no
盆とで 盆は 三日 休んで おれたちの

tokinja miqkad jaqta sono maenja iqsju:kanmo
ときには 三日だった その 前には 一週間も

jasundari suru kotomo aruke ndone ja (H ~u:)
休んだり する ことも あるけれどだな

H sono:: ma: jo: jasumi~ga aqtaga nanijui⁽²⁰⁾ son-
そのう まあ よく 休みが あつたが 何かい そん

na tokubetuni kimaqta sikisikino jasumi
な 特別に きまつた 式日式日の 休み

igainimo amagoi~dja: nandja: ju:te unto jasu-
以外にも 雨ごいだ なんだと 言って うんと 休み

miga arja: sezaqtakae mukasja
が ありは しなかったかね 昔は

Y aqtojo mukasjane ja
あったよ 昔はだな

H bijokino hajaqta tokinimo sonna koto~ga arija-
病気の はやった ときにも そんな ことが あり

sezaqtakae
はしなかったかえ

Y bijokino
病気の

H sekiridosi ju: ga: siqtjorukae
赤痢年と いう のを 知っているかね

Y u:a siqtjoru
んーあ 知っている

H sono sekiri[~]dosinja: nani ka: tokubetuni jasu-
その 赤痢年には 何か 特別に 休

Nda koto naika e
んだ ことは ないかえ

Y tiqtomo siran nainika:raN
少しも 知らない どうもないらしい

H utirā: dja mukasi ano: bjo:kini naqta tokini
うちなんかでは 昔 あのう 病気に なった ときに

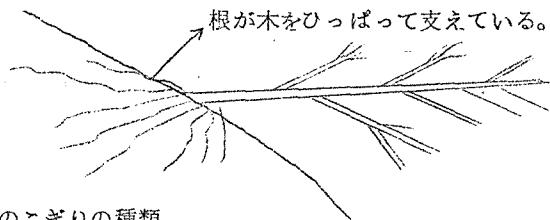
gokito: jaqtonto:
御祈禱を やったよ。

注

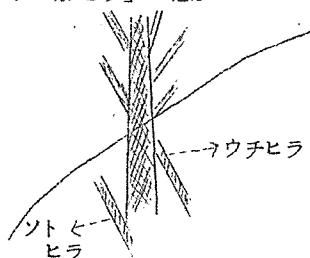
1. 木挽閑談

- (1) [p. 5] ku ところ, うち, 家。よさこい節に “いうたちいかんちやおらんくの池にゃ…” がある。
- (2) [p. 5] 官公地, つまりここでは, 国有林。
- (3) [p. 5] hata は共通語だからそのまま直訳したが, 私見によれば, ほんのわずかだが, 方言的なにおいがあるようにも感ずる。
- (4) [p. 6] toqt i kitjoru と切り離す。(訂正) 共通語の「て」「で」に当たるところに /t i//di/ があらわれる。この現象は大方町でも, 万行(まんぎょう)・鞭(ぶち) (厳密には「浮鞭」)・加持(かもち)・湊川(みなとがわ)などの部落に限られており, それも主として老年層の間に見られる。
- (5) [p. 6] [k] が脱落している。
- (6) [p. 6] oga のこぎりの大きいもの。
- (7) [p. 6] hira 方, 側。
- (8) [p. 6] 地点・目標などをあらわす「へ」に相当するものに /i/ があらわれる。土佐清水市・大方町・高岡郡旧長者村などで使用される。

- (9) [p. 7] *saogu* or *sawagu* あちこちかけずりまわる。
- (10) [p. 7] *taNmetima:ru* を意図したものであろう。*taNmeru* or *taNneru* さがす。
- (11) [p. 7] *sinasu* 物をつくりあげる。
- (12) [p. 7] 木に墨の線をつけるのである。
- (13) [p. 8] 主格をあらわす助詞。
- (14) [p. 9] 長いたけの木を意味しているようである。
- (15) [p. 10] *dake* ①断崖 ②石まじりの土。*dake* が独立して使われることもある。
- (16) [p. 10] *tu* は接頭語。
- (17) [p. 10] *riN* 一種の枕木。
- (18) [p. 11] 山の傾斜地に立っている木ゆえ、その木が倒れる際など根が蔓のようになってひっぱる働きをする。それで、根を *turu* と言ったものであろう。



- (19) [p. 11] のこぎりの種類。
- (20) [p. 11] 立木を切った際 木の重心がのこぎりにかかって来るので、それを避けるために切り口に挿入するもの。
- (21) [p. 12] *nagasu* 「下へ落とす」の意。
- (22) [p. 12] 立木の上側。
- (23) [p. 12] 立木の下側。
- (24) [p. 14] つぼの一種か。



(追記)

- * [p. 9] 一種の植木のようで、注17の *riN* と同じような意味らしい。
- ** [p. 11] 「受口を切る」は倒そうと思う方の側に斧を入れること。
- *** [p. 13] [*kos o*] に近く聞こえる。

2. 漁師の思い出話

- (1) [p.16] *date* は、「年配」の意。「達」のなまつたものようであるが、単なる複数ではなく、「年齢層」の意味に重心がうつっている。(浜田数義氏説)
 - (2) [p.16] *ponto* (全部) は、筆者も少年時代長岡郡後免町(現在南国市)近傍でよく使用した。類語に *nengoro*; *suqton* があった。
 - (3) [p.16] *hanamai* 足摺岬周辺をいう。
 - (4) [p.17] *pai* は、舟を数える単位。須崎市あたりでも使用。
 - (5) [p.17] *jonzju:* の前に *meidi* が、ごくかすかに入っている。
 - (6) [p.17] *sinda:ðjaiko* を目指しているが、dとiが *silent* になっているし, koもはっきりしない。
 - (7) [p.19] もちろん *tokoro:* と表記すべきかもしだぬが、仮りにこのように表記しておく。
 - (8) [p.19] このような場合、幡多方言では助詞の *te* が顕現しないことが しばしばある。
 - (9) [p.22] *do: ju:* と分けて書くことが考えられる。
 - (10) [p.22] 浜田数義氏によれば、*hono* は、副詞であるが、実質的には感動詞に近いという。
 - (11) [p.22] *kura* は、野菜などの株を数える単位。
 - (12) [p.22] *hagiri* たらいの形で、更に大型の桶。
 - (13) [p.22] *jamasa* 三という家の屋号。地震のとき家が流されたらしい。
 - (14) [p.23] *ga* に独立性の強いと思われるときは、仮りに分けて表記した。
 - (15) [p.23] *kosan* 目上に対してのみ使用する。若い人は使用しない。
 - (16) [p.24] *ju:te* ことばの間に自然にはさまつた一種の発語。
 - (17) [p.31] 一般には *waru:temo* であるが、老人にはこのような特殊の言い方がある。
 - (18) [p.31] *ako* (あそこ) 幡多方言のみならず、県下で広く使用される。(長岡郡大豊村などを除く。)
 - (19) [p.32] 録音の関係で明瞭性を欠く。*sikizitu* を意図したものか。ちなみに「しき」は、浜田数義氏『大方町方言集』に、「正月、盆など年中行事として決っている休日」とある。
 - (20) [p.33] 話の途中にはさむ一種の間ことば。ただし一般には使われぬ。
- * [p.22] [*o:rijo*] [*orijo*] あたりを目指していると思われるが、[*dʒi:ro*] に近く聞こえる。

非 売 品

1968年3月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

東京都北区稲付西山町